

学校概要

創立 43 周年	学校長 山手 英樹	副校長 瀧川 文子	学期 2 学期制	児童・生徒数 381 人
学級数 一般級: 12 個別支援級: 3		主な関係校: 港南台第一中学校 日野南中学校		

学校教育目標

「生きる喜びを実感する第二小の子どもたち」

○元気で明るく、のびのびと生活する子を育てます。(元気)  
 ○進んで自分を表現し、人とつながる子を育てます。(勇氣)  
 ○問題解決に、根気よく努力する子を育てます。(根気)

学校の特徴

根岸線開通と共に発展してきた街が主な学区である。住民の文化活動、スポーツ活動等が盛んであり、学校教育への関心は高い。  
 □児童は落ち着いて学習に取り組んでいる。市学習状況調査の結果から児童の学習への意識は比較的高く、通過率はどの教科でも市の平均かそれ以上である。また、新体力テストの結果も全種目で市平均値を上回っている。そんな中、学力の定着に苦しんだり、学習に集中できなかつたりする児童もいる。チームでの支援体制を充実させる必要がある。  
 □保護者地域からの信頼は厚く、PTA活動や見守り隊などのボランティアは協力的である。  
 ■地域には多くの教材が存在し、研究を通してそれを学習に生かしていきたい。  
 ■教職員の組織力をよりいっそう高める必要がある。

学校経営中期取組目標

○「だれもが安心して豊かに」生活できる学校を目指します。～全ては子どものために～(子どもにとってどうかで判断をする)  
 ○子ども一人ひとりを大切にしながら、感動のある学校を目指します。～豊かな学びへ向けて～  
 ○新学習指導要領の方向性をキャッチして、新しい教育課程(カリキュラム)を作成します。  
 ○まちとともに歩む学校を目指します。～地域との連携をよりいっそう進める～  
 ○全教職員による協力指導体制の構築します。～教職員、保護者、地域住民、関係機関を含めたチーム二小の構築～  
 ○児童を理解し、学校全体での組織的な支援体制の構築を図ります。～特別支援教育の充実～

小中一貫教育の取組

港南台第一中学校 **ブロック** : 港南台第一中学校 港南台第一小学校 港南台第二小学校 港南台第三小学校

9年間で育てる子ども像	ともに「まち」で生き、「まち」に学び、「まち」をつくる、港南台の子どもを育てる。
自校の具体的取組	・総合的な学習や生活科を重点的に研究すると共に、その他の教科領域で「まち」に題材を求め教材化するとともに、「まち」の先生、「まち」の教育力を生かした教育課程を工夫する。 ・思考力、判断力、表現力の育成を図る一貫カリキュラムの運営、改善を図るために、とくに中学校との相互授業参観を実施するとともに、各教科授業研究の場でも中学校教員との研究協議ができるよう交流を進める。

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 担当 研究部	問題解決に、ねばり強く努力する子を育てる。	・「わかった。できた。」と学ぶ楽しさ(感動)を味わわせたい。子どものよさや可能性、創造性の伸長を図るために、子どもの興味・関心を喚起させる。「総合的な学習の時間・生活科」を重点的に研究し、地域の教材を生かした問題解決学習を充実させていく。授業力の向上に努め、引き続き「伝え合う力」を高めていく。
豊かな心 担当 道徳部、人権、ふれあい	人を思いやり、進んで活動する子を育てる。	・縦割り活動(ふれあい活動)の意図的計画的な展開により自己有用感の育成を図る。・人権教育を進め互いの違いを認め合う心の育成を図る。・道徳教育を学校の全教育活動を通して計画的・発展的に行う。子どもがねらいとする道徳的価値を自分との関わりの中で考えさせることにより、主体的に道徳の学習に取り組ませる。
健やかな体 担当 体育部	元気で明るく、のびのびと生活する子を育てる。	・心と体の健康に関心を持ち、望ましい生活習慣を身につけ、自ら進んで健康づくりに取り組む姿勢を育てる。・運動の特性や児童の実態をつかみ指導計画をたて、授業力の向上を図っていく。・年間を通した長縄とびの取り組みや陸上やボールゲームの朝練習など、体力づくりに取り組む。
地域連携 担当 総合生活部、渉外部	地域連携のメリットを共通理解し、地域の教育力をより一層学校教育に生かしていく。	・「まちと共に歩む学校づくり懇話会」を「学校運営協議会」に移行し、新しい教育課程やこれからの教育について語り合い、「社会に開かれた教育課程」を実践していく。地域の教材を学習に生かし、地域人材と連携して授業の充実を図る。異校種との交流活動の取組を充実させていく。(幼・保・中・高・特別支援学校・短大等)
児童指導 担当 児童指導委員会	二小スタンダードを全教職員で共通理解し、指導の徹底を図っていく。コミュニケーションを大切に、いじめの防止、早期発見に努める。	・児童支援専任を中心とした児童指導体制の確立を図る。・計画的また必要時の予見指導・迅速適切な対応(報告・連絡・相談)・情報交換の時間確保・家庭環境の把握的・多面的児童理解・支援体制確立…関係機関、専門家との連携 → ケース会議の開催・スタートカリキュラムの実施…4・5月の指導体制
特別支援教育 担当 特別支援教育委員会	児童に応じた支援計画の策定し、学校全体での組織的な支援体制の構築を図る。	・全体支援会議において児童の情報の共有を図る。関係機関との連携強化を図り、チームで子どもを支援していく体制を確立していく。アシスタントティーチャーや学校ボランティアの有効活用を図る。ユニバーサルデザイン教育について研修を進める。・港南台ひの特別支援学校との連携を深めるために交流活動などの取組を年間を通して進める。
危機管理 担当 防災・安全委員会	～安全は全てに優先する～をモットーに、リスクマネジメントの充実を図る。	研修等を通して以下のリスクを回避するよう努力する。①児童の行動に関わるもの②登下校時の事故③教師の安全指導不十分なことに関わるもの④宿泊体験学習における事故安全配慮義務違反⑤食の安全⑥感染症⑦施設の瑕疵⑧災害時の対応⑨教職員の服務に関わるもの
いじめへの対応 担当 児童指導委員会	・「いじめを絶対に許さない」意識を教職員・保護者・地域住民で共有し、児童が安心して学校生活を送れるようにする。	・児童理解に努め、誰もが安心して参加でき、自尊感情を高める授業づくり・集団づくりを進める。児童指導委員会を中心に校内児童支援体制の充実を図る。教職員がいじめの定義を正しく理解し、いじめについて適切に判断し対応できるよう研修する。保護者に寄り添い信頼関係を構築する。いじめ防止研修の充実を図る。
人材育成・組織運営 担当 研修部	・全教職員による協力指導体制を構築し、組織力・チーム力の向上に努める。	・メンターチームを組織し、ミドルリーダーが講師となって継続的に活動を行うことにより、教職員の専門性を向上させる。(自主的な運営)・学年研の充実(人材育成)を図るとともに、学年ノート等記録を次年度へ生かすようにする。